

授業科目名	【G】	プレゼミⅡ	区分	必修	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	現代社会の動きを知る				担当者	百花草 浩治		
授業概要	【概要】	新聞記事を全員で読むことを通じて、現代社会の動きを知り、また、その背景事情に迫る。						
	【到達目標】	① 毎日、新聞を読む習慣を身につける。 ② 社会の動きに関心を持つことができるようになる。 ③ 社会で日々、起こる出来事の背景事情に関心を持つことができるようになる。 以上の3点を目標としたい。						
履修条件	特になし。							
アクティブラーニングの方法	【○】	事前学習型	【-】	反転授業	【○】	調査学習	【-】	フィールドワーク
	【○】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【-】	ロールプレイ
	【○】	プレゼンテーション	【-】	模擬授業	【-】	PBL	【-】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)						
他科目との関連性	プレゼミⅠで学習したことを活かしてもらいたい。 2年次の法学政治学演習Ⅰ・Ⅱ、3・4年次の研究会Ⅰ・Ⅱでの学習につながるような主体的な取り組みを期待したい。							
教科書	特に指定しない。							
参考書	いわゆる全国紙。および、その縮刷版など。							
評価方法	授業への取組状況全体を総合的に評価する。(自己の発表担当回60%、それ以外の回40%) ただし、自らの発表が行われることが評価の大前提である。							
フィードバック方法	講義内容に関する質問等は随時、受け付ける。必要に応じて、講義でもそれに触れる。							
評価基準	原則として、全15回のうち、少なくとも10回以上の「出席」を単位認定の前提とする。担当したテーマにつき、よく理解し、自己の見解を適切に表現できた者について、その程度に応じて、「S」または「A」とする。理解度や表現内容がなお十分とはいえない者は、その程度に応じて、「B」または「C」とする。担当したテーマにつき、理解の度合いや報告内容が最低限度に達していない者について、その程度に応じて「D」または「E」とする。自らの発表が行われなかった場合、あるいは、欠席回数が著しく多いなど、評価不能な場合「F」とする。							

授業 科目名	【G】 プレゼミⅡ	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
		必修				
授業内容	<p>【1回目～4回目あたり】 1週間の新聞記事の中から、いくつかを選んで全員で読む。</p> <p>【5回目あたり～10回目あたり】 自分で興味のある新聞記事を選んできて、それを他の参加者に紹介する。なぜ、その記事に関心を持ったのかについても、あわせてコメントをする。</p> <p>【11回目あたり以降】 自分で興味のある新聞記事を選んできて、それを他の参加者に紹介するだけでなく、加えて、その背景事情などについてもできる限り自ら調査をし、わかりやすく説明する。 他の参加者は、それに対して、その説明においてわかりにくい点などを質問する。</p>					
予習内容	発表内容が確定している場合には、その事項について、各自、調査して、疑問点を明確にしておいてもらいたい。 授業ごとの予習時間は90分程度を目安としてください。					
復習内容	特に、復習をしっかりしてもらいたい。 授業内容を整理・確認したうえで、何らかの疑問が出てこれば、自ら調べる、あるいは、次回の授業でぜひ質問してもらいたい。 授業ごとの復習時間は90分程度を目安としてください。					
その他	特になし。					